

# 新事研きかせて BOX通信

令和7年11月1日発行

第6号

発行 理事会

## 第8回 北越地区公立小中学校事務 研究会研究大会（富山大会） 第1部分科会発表 報告

令和7年8月7日に、第8回北越地区公立小中学校事務研究会研究大会が行われ、全事研新潟支部（新事研と新潟市事研の合同プロジェクトチーム）が第1分科会の発表を担当しました。

分科会発表に向け、昨年10月から準備をはじめ、大会主題「学校のウェルビーイングを考える事務職員」のもと、新潟支部は、「**協働から協創へ ～共に創る学校のウェルビーイング～**」をテーマに発表を行いました。

### 新潟支部の考えるウェルビーイング

新潟支部が考える「ウェルビーイングが実現された学校」とは、子どもにとって「**学び心地の良い学校**」、教職員にとって「**教え心地の良い学校**」、地域や保護者など大人たちにとって「**支え心地の良い学校**」です。子どもや教職員、地域住民、保護者が連携し、やりがいや達成感等を感じながら、よりよい学校を実現していくことが重要となっています。

### 協働から「協創」へ

新潟支部では、これまでも校内外の様々な人や組織と協働し、よりよい学校運営のために様々な取り組みを行ってきました。しかし、学び方・働き方の多様化等を背景に、対応すべきことはますます増えています。こうした状況でウェルビーイングを実現するためには、**これまでの協働の形を発展させ、既存の仕組みを活用し、新たな価値を創造する「協創」の考え方**－形骸化していることを見直し、ねらいを新たに設定する。既存の仕組みをもとに新しい価値を創っていくこと－が必要ではないかと提案しました。

また、「協創」の具体例として、「既存の校内組織を活用し、協議の機会を増やすことで次年度予算要求に反映させた取組」や「共同実施グループ運営委員会の見直しを行い、教頭会や地教委と連携し、課題解決につなげた取組」、「ICTを活用し共同実施支援体制を構築した取組」、「学校運営協議会での熟議をもとに、環境整備に生徒の意見を取り入れた取組」を紹介しました。

## 第8回 北越地区公立小中学校事務 研究会研究大会（富山大会）参加者の感想（抜粋）

学校事務職員が教職員や共同実施、さらには児童生徒や地域などと協働し、学校のウェルビーイングにつながった実践が紹介され、大変勉強になりました。

**学校にかかわる一人一人のウェルビーイングが向上すれば、子どものウェルビーイングの向上につながり、教職員はもちろん地域の活力につながるという好循環が印象に残っています。自分もその好循環の一員になれるよう、一歩ずつでも行動していきたいと感じました。**

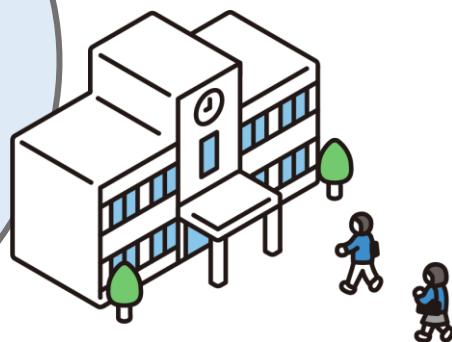


「協創」は、難しくとらえてしまいそうですが、一人一人が得意なことや専門分野で補い合うような、小さなことからでもできることがある（既にできていることもある）と思いました。

**今までより少しだけでも良いので「子どもも大人もwin-winにうれしいことはなにか」を考えながら、他者との交流を図っていくことで、実践、ウェルビーイングの好循環が生まれていくのではないのでしょうか。**

獲得的ウェルビーイング（自己肯定感・自己実現）と協調的ウェルビーイング（人とのつながり・社会貢献意識）、2つのバランスが重要であり、調和的に育む日本型ウェルビーイングの話がとても印象的でした。

個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実は、日本型ウェルビーイングそのものであり、授業でも学校運営でも、本質は同じであるように感じました。先生方は授業で、学校事務職員はさらにマネジメント空間を拡張し、**もっと広い視点で環境や仕組みづくりの面からウェルビーイングを支える存在でありたい**と思いました。



ご参加いただいた皆様、ありがとうございました。

新事研 きかせてBOXへの投稿は [こちら▶](https://forms.gle/i9pYd225qU4p2Rbp9)  
<https://forms.gle/i9pYd225qU4p2Rbp9>

